

学校番号	学校名	校長名
23	川崎市立御幸小学校	滝口 太志

学校教育目標	今年度の重点目標
やさしく かしく たくましい子の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな心」の育成 ・「確かな学び」の推進 ・「健やかな体」の育成と「子どもの安全の推進」 ・開かれた学校作り <ul style="list-style-type: none"> ○支援教育の体制充実と規範意識・自尊感情の育成 ○「キャリア在り方生き方教育」の趣旨に沿った教育活動の実践 ○子ども達の感性を内面から刺激し、じっくりと物事に向き合い、考えが深められる読書活動の充実 ○主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 ○専科指導・交換授業などによる基礎基本の定着を目指す授業づくり ○一人1台のPC端末を有効活用した授業展開の工夫 ○生活科、社会科の授業を通して進んで考え、思考力を高める授業づくりの実践(社会科研究推進校) ○児童の実態に応じた居場所の確保(ホットルールの開設) ○安全安心な学校生活のための教育環境の整備と活用の工夫 ○防犯・防災交通安全対策の充実 ○保護者・地域との相互理解を深める開かれた学校づくりの展開 ○学校からの積極的で工夫した発信、小中連携、幼保交流の充実

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 支援教育の体制充実と きめ細やかな支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育コーディネーター(CO)を中心に支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな支援・指導を実践する。昨年度から配置させた月2回のスクールカウンセラーの有効的な活用を行う。 ・別室指導モデル実施校として、不登校気味な児童や教室に入らずらい児童のための教室としてほっとルームの継続。 ・共生＊共育プログラムに基づき、自己肯定感を高めるような人間関係作りに取り組む。 	<p>専任の支援教育CO、支援・指導担当を中心にきめ細やかな支援が行えるようになってきている。また、教育相談体制が充実し、保護者の理解や協力も得られるようになってきている。教育相談件数が年々増加しているため、専任の支援教育COを2名体制にしたことで負担が軽減された。スクールカウンセラーによる面談も充実したのようになった。ほっとルームが浸透したことにより登校日数の増えた児童や、ほっとルームならば安心して過ごせるという児童も増えた。NPO等の協力を得ながらサポーターの配置、教育ボランティアの確保が必要である。今後もよりきめ細やかな支援を実施したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育COの専任継続と児童支援担当の複数配置 ・通級指導教室との連携強化 ・講師を招いての研修実施の継続と協議方法の工夫 ・サポーターの配置や教育ボランティアの確保 ・ほっとルームの継続、さらに教室へ行くことができるような支援も継続
2 児童指導	望ましい人間関係の構築に向け、学年・学級経営を基盤とした児童指導に努める。学校全体での共通理解を図り、指導にあたる。	「困った時は先生や友達に相談できる」という問いに「とてもそう思う・そう思う」が95%であった。各担当が支援教育COと連絡を密に取っている成果であるとする。子ども同士の人間関係や変化を見逃さないようにきめ細やかな指導を実施し、「そう思わない」という評価がゼロになるよう努力していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年での協力指導体制の充実 ・児童支援担当からの情報配信を基に共通理解を図り、指導の徹底 ・児童や保護者に対する教育相談の充実
3 心の教育の推進	キャリア在り方生き方教育では今年、「かかわる力」と「自分を見つけるに力」に力点を置いて指導する。様々な教育活動を通して人権教育を推進する。豊かな心を育てるためのふれあい活動を大切に。子ども達の感性を内面から刺激し心を豊かにしていくこと。じっくりと物事に向きあい考えを深められるような読書活動の充実を図る。	日々の教育活動の中で、全教職員が子どもを認め、励まし、ほめて子どもの可能性を伸ばしていく教育実践を進めた。「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」「将来の夢がある」という問いには全国平均と同程度の結果が見られた。低学年から実行委員会を設けるなどして、自分の力を発揮する場を用意し、他者に認められる機会や学校行事に積極的に参加することを設けた成果だと考える。読書活動については保護者アンケートの結果、読書にはあまり関心がないようだと感じられる割合も多かった。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重を柱にした児童理解研修の推進 ・学年会等での話し合いを定期的実施 ・ノートの活用を図るなどキャリア在り方生き方教育の推進 ・児童がもつ読書に興味を持つような指導の工夫。
4 学習の基礎基本の確実な定着をめざす授業改善	子ども達が進んで課題を追究したり、問題解決的な学習を取り入れたりする授業を積極的に推進し、授業改善を図る。3年生以上で外国語活動の専科教員の配置 1人1台のPC端末の活用について1年生はstep1を2年生以上はstep3を達成できるようにする。	「自分の思いを伝えあいながら、心通わせる御幸の子」という主題で、生活科と社会科の授業実践を進めた。社会科は推進校2年目として問題解決的な学習についての指導方法が浸透してきている。12月には全市に向けて授業公開も行った。外国語活動の専科教員による指導により充実した指導が行えた。各学年で目標としていたstepは達成できた。1人1台の端末でどのような取り組みができるのか、今後も活用方法について考えていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の課題を明確にした授業実践と講師を招いての研修の実施 ・少人数指導・専科による指導法の工夫改善 ・教科指導やライフステージに応じた研修等の内容の共有化や自主的な校内研修会の実施 ・情報機器の扱いについて情報モラル教育の更なる充実が求められる。
5 教育課程の実践・見直し(教育課程)	学習指導要領に準拠した指導計画・評価計画を実践し、個に応じた指導の充実を図るとともに、年度ごとの見直しを進める。	学習指導要領に基づいた各教科・各学年での指導計画・評価規準に沿って実践し、必要に応じて見直してきた。今後も全教員の授業力向上にむけて努力すると共に、新学習指導要領に沿って道徳教育や外国語・外国語活動の指導法等を研修し、指導体制や教材研究の充実を図っていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の趣旨を共通理解するための研修会の実施 ・指導計画や評価計画に基づいた指導の実施 ・教科部会や学年間連携による教材研究の充実 ・新教材や地域学習に対応した教材の工夫と研修

6	安心・安全な学校生活のための教育環境の整備と防災教育の推進	児童の健康・安全意識を高める教育活動を推進するとともに、安全管理システム作りに努め、危機管理対策を進める。	養護教諭や栄養教諭による健康、食育の授業の実施や食物アレルギー対応について必要な対策をとった。避難訓練や引き渡し訓練は、発達段階や様々な状況を想定し考慮しながら計画的に実施した。垂直非難についてはあまり現実的ではないことも確認できた。スポーツ委員会などが進めていた大縄記録会は盛り上がっていた。	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭や栄養教諭による健康、食育の授業の実施 ・学校安全・防災計画に基づき危機管理研修の実施 ・健康集会やキラキラタイムの計画的実践
7	教育環境の整備	学校全体の環境整備に全職員で取り組み、安全で気持ちよく活動できる環境を維持整備する。	校舎内外の点検を日常的に行い環境整備に心がけている。校舎ができて15年が経ち、施設・設備の不具合も出てきており、日ごろ見過ごしている箇所を点検し、安全で機能的な環境づくりに心がけてきた。今後も全職員による点検と対応を継続していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の安全点検を実施し、施設設備の整備の推進 ・樹木の剪定など計画的な整備 ・施設開放団体協力による側溝清掃などの継続実施
8	保護者地域との相互理解を深め開かれた学校づくりの展開・小中連携・幼保交流の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学年・学級便り、学校HP、授業参観、懇談会、学校公開等様々な手段で学校の情報を発信公開し保護者・地域住民の理解を深める。 ・夢教育21推進事業等を利用して地域人材・各界有識者の活用を積極的に行い、社会に開かれた教育課程の編成や授業実践に努める。 	地域の活動や伝統文化などを素材とした教材を教科学習や総合的な学習の時間などに取り入れ、学習の質的向上を図った。保護者の方々が積極的に学校行事や読み聞かせボランティアなどに参加する活動ができた。保護者・地域と連携・情報交換できる新たな方向を模索していきたい。保護者に配布する手紙のペーパーレス化を進めることができた。学校だよりの裏面に全学年の学年のお知らせをコンパクトにまとめて配布するようにした。HPの更新の頻度、中身の充実が今後の課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域等の人材の確保と計画的な予算執行 ・学校教育推進会議など保護者・地域との連携・情報交換 ・小中・幼保小の連携推進・学校・学年便りやホームページ等を通じた適切な発信 ・情報配信システムへの保護者の全加入への働きかけと適切な情報配信の継続
学校関係者の評価		学校運営のまとめ		
5月、11月、2月の年3回の学校運営会議を開催することができた。運動会もご覧になって頂き、子ども達の様子、学校の様子を見ていただくことができた。日常の学習活動が落ち着いた雰囲気の中で活発に行われていることを評価していただいた。運営会議の中では、子ども達と意見交流をする有意義な時間を作ることができた。3回目の会議では12月に児童と保護者向けの学校評価アンケートの結果を説明し、各委員からは全般的によい傾向である旨の評価を受けた。地域の活動にもっと子ども達や保護者に参加してもらえようように連携してもらいたいとの要望もいただいた。次年度以降の教育実践に生かしていきたい。		学校教育目標の達成のため、「支援教育の体制充実と規範意識・自尊感情の育成」「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」「社会科・生活科の研究を行い、自分の思いを伝え合いながら心を通わせる子どもの育成」「少人数や専科指導・交換授業などによる基礎基本の定着を目指す授業づくり」「一人1台のPC端末を有効活用した授業展開の工夫」「安全安心な学校生活のための教育環境の整備と活用の工夫」「防犯・防災交通安全対策の充実」「保護者・地域との相互理解を深める開かれた学校づくりの展開」「学校からの積極的で工夫した発信、小中連携、幼保交流の充実」という重点的な目標を決めた。保護者・地域との連携や小中連携・幼保小の交流等も積極的に行い学校運営を進めていきたい。		